

## 【1.北海道交通政策、M a a Sの取組について】

はじめに、北海道交通政策、M a a Sについて伺います。

M a a Sはスマートフォンを活用し、出発から目的地までの移動手段の検索・決済を一つのサービスで完結できるシステムであり、十勝地域では、昨年10月と今年2月に実証実験が行われています。

昨年の第4回定例会において、10月に行われた実証実験について道の見解を伺い、お答えとして、今後、実証実験で、得られた成果や課題を全道の関係機関等と共有するとともに、道内7空港を中心としたM a a Sの展開に向け、積極的に取組んで参るとのお答えでした。

第2弾として、2月1日から1か月間行われた十勝管内での実証事業では、小田急電鉄(株)のM a a SアプリEMo tを活用して検索から予約、そして決済が可能なM a a Sの有益性を実証したとお聞きしています。

北海道を訪れる観光客は、旅行ガイドブックやインターネット上の情報から、観光地の情報が得られたとしても、距離や時間、交通手段の選択など、たどり着くための情報が一元化されていないのが現状と考えます。また、わずかな時間を有効に使える見どころプランなど、旅行客のニーズも様々と考えます。

現在、ホテルや食、グルメ等の情報は専門の企業が個別にアプリ等を作り、サービスを実施していますが、そこに、交通やイベント、アクティビティーと合わせた情報提供をM a a Sに融合することで、価値が高まると考えます。

つまり、利用者にとって、使い易い、アプリの開発と周知方法が大きな課題であると考え

ます。

交通政策の部署だけでなく、経済部でも観光に絡めたデータのオープン化施策を進めていくことが重要であり、全ての交通モードのあらゆるサービスが統合される『北海道M a a S』実現のためには、道内全域でワンチームとして取組むことが重要と考えます。

今回の、第 2 弾として行われたM a a S の実証実験から、実績を含めた成果、今後の展開・取組について、道の見解を伺います。

**(答弁：交通企画監（総合政策部交通政策部企画課）**

- ・道では、利便性が高くストレスのない移動環境の実現を目指し、指針において『シームレス交通戦略』を掲げ、ダイヤ接続の見直しなどの取組を実施。
- ・本年 2 月の実証実験では、観光客の周遊増加を図ることができた一方、利用者にとって魅力的な商品造成や容易にチケット購入できる仕組みなど、更なる利便性の向上を図ることが課題。
- ・こうした課題を踏まえ、今年度は、飲食店のクーポンと交通チケットを組み合わせた商品造成に加え、アプリからウェブサイトでのサービス提供へ変更し、住民向け実証実験を実施。
- ・道としては、多様な事業者による連携体制の構築を進めながら、空港などを拠点とした導入を促進するなど、M a a S の全道展開に向け、取り組んで参る。